

令和4年度 川口市行政評価外部評価委員会 質問・指摘及び回答一覧表

部会・事業名	第一部会	自転車駐車場施設管理費	事業担当課	交通安全対策課
--------	------	-------------	-------	---------

1 第2回外部評価委員会 質疑応答内容

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
1	業者を選定する際は、指名競争入札ということだが、これは毎年同じような業者を指名しているということか。	指名競争入札における指名業者については、特段新しい業者が入ってこない限りは、毎年同じ業者に声掛けを行っている。	
2	指名する業者が同じだと、市が費用を高く設定される可能性などもあると思うが、競争性等についてどう考えているか。	金額の高騰が続いているため、見積もり徴取後、職員が人件費や仕様の内容について、確認し、見直しが必要であれば、再検討していただいている。指名競争入札をするというところで、価格の部分も競争が働いていると思っているが、ご指摘の通り、請け負うことができる業者が限られていることは事実であることから、業者から提示された金額を精査し、その金額の妥当性をいかに判断していくかが今後の大きな課題の一つと捉えている。	
3	西川口の自転車駐車場が陸橋の耐震工事があるため、その間、使用できなくなるが、代替等は考えているか。	先行して工事が行われる西川口陸橋東側にある並木自転車駐車場については、代替地として適した場所を昨年度まで探したが見つからなかったことから、近隣の民間の駐輪場の空台数を全て確認したところ、並木自転車駐車場利用者以上に空きがあることが確認できたため、定期利用者に対し、秋からは代替地なしで使用できなくなる旨を案内しているところである。なお、その後工事が行われる西川口陸橋西側にある西川口の自転車駐車場については、代替地の候補を現在検討しているところである。	

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
4	民間駐車場の空きが多くあり、大部分が収容できるのであれば、新しく作る駐車場の規模などを考える必要があるのではないか。	ご指摘のとおりである。しかしながら、西川口の陸橋下にある二つの駐車場については、比較的利用率が高いことや、利用者から市営の方が安く利用しやすいという意見もあるため、新たに建て替える駐車場の規模については、慎重に検討していきたい。	
5	幸町自転車駐車場の収容率が、令和3年度は8%と低いため、廃止等を考える時期に思えるがどう考えているか。	幸町自転車駐車場の利用率が低いことについては、把握している。駅周辺の状況も含め、将来的に廃止することも選択肢の一つとして検討していきたいと考えている。	
6	駐車場の整備について、将来の建て替えも含め、ある程度、資金を準備して運営していくというのが通常の方法だと思うが、一般会計から全て算出することから、資金面の計画は特に行っていないということか。	費用については、基金で積み立てているわけではないため、施設マネジメント推進室と財政当局と調整をしながら、一般会計で捻出をしていく。	
7	他の自治体では、指定管理者制度の導入、営利団体や株式会社に委託等、市の資金を使用していない自治体もあるが、実際にそのような方法で運用している自治体があるということは把握しているか。	他市の状況については、全てではないが、状況は把握している。現状では、指定管理者制度と自転車駐車場整備センターを活用できないか考えているところである。	
8	民間の駐車場が増えてくることにより、その結果、公共の駐輪場の削減となり、修繕費や固定費の削減にも繋がると思うが、現在川口市の条例で事業者、百貨店等に、駐輪場の設置義務などはあるか。	1,000㎡超の小売店については「大規模小売店舗立地法」により設置義務がある。また、百貨店やスーパー等、大量の駐車需要を生じさせる施設については「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」により、地方公共団体が設置条例を定めることとされている。本市には現在、設置義務条例はないが、仮にあったとしても、既存の施設には適用されないため、効果は限定的と考える。市では、駅周辺に民営自転車駐車場を設置する者に対して補助金の交付を行っている。	

2 第3回外部評価委員会にて回答する質問項目

No.	質問内容	回答方法	回答内容
1	<p>財政課と協議していくという話はあったが、担当課として各施設の方向性をどのように考えているか回答いただきたい。</p>	<p>説明</p>	<p>施設の修繕や委託料等の自転車駐車場施設管理費については、自転車駐車場使用料・自転車置場登録手数料で賄うことができない部分について、一般会計から算出している。</p> <p>しかしながら、駐車場の建設や建て替えには多大な予算を要することから、他市の状況を見ると、民間活用による建て替えや、駅周辺に駐車場を建設できるような市有地が無い場合は、民間事業者による歩道等を活用した一時利用用の課金式ラックを設置し、買い物客による商業施設周辺への放置に対応する等の事例がある。</p> <p>本市において、こうした手法により、施設の改修や駐輪需要に沿った自転車駐車場政策を行っていきたいと考えている。</p> <p>S Rの地下4施設については、平成13年に設置され、20年が経過しているが、全面的な改修が難しいことから、不具合がある場合は、適宜、修繕で対応を考えている。</p> <p>川口駅東口地下自転車駐車場については、地下施設として昭和45年の設置から50年以上経過しているが、単体での改修が難しいことから「川口駅周辺まちづくりビジョン」により改修、又は移転を進めていくことになる。</p> <p>栄町自転車駐車場については、昭和62年に設置され35年が経過している。令和2年度に建て替えを検討したが、隣接する駐車場との関係から費用が膨大になることが判明し、断念した経緯がある。</p> <p>川口自転車駐車場（西口）については、昭和62年に設置され35年が経過している。駐輪場の上部に公園があり全面的な改修は難しいものとなっている。</p> <p>幸町自転車駐車場についてはNo. 4の質問で回答する。</p> <p>今後の方向性としては、課金式ラックの設置やゲートの設置により、交通系ICカード導入による利用者の利便性の向上や人員削減による委託料の削減、また、指定管理者制度の導入による削減効果等について調査・研究して参りたいと考えている。</p>

No.	質問内容	回答方法	回答内容
2	<p>自転車駐車場整備センターを活用した場合の具体的なメリットを教えてください。そして、何年後ぐらいに市に移管され、移管後は、どのように市は対応するつもりか。</p>	<p>説明</p>	<p>まず、第2回評価委員会のディスカッションにおいて、「センターありきで話が進んでいるように感じる」との意見があったが、自転車駐車場整備センターはこれまでの実績等を勘案し、事前相談を行っているものであり、業者の選定については公募式プロポーザルを考えている。</p> <p>自転車駐車場整備センターを活用した場合のメリットについては、老朽化した自転車駐車場の建て替えについて、センターの資金（公益財団法人JKA・一般財団法人日本宝くじ協会等の補助金・助成金）を活用することにより、市は整備費の一部を負担するだけで整備することができる。また、条例改正（当該駐車場を外す）を行いセンター所有となることから、委託料の縮減が図られるほか、交通系ICカードの導入等による利用者への利便性を図ることができるなどのメリットが考えられる。市の負担額については、施設の規模、構造等によって異なるが、協議の上、定めることとされている。</p> <p>市に移管（無償譲渡）される時期については、施設の規模や利用料金によって異なるが、概ね7～10年と聞いている。また、条例改正を行いセンター所有となることから、無償譲渡後は指定管理者制度の活用を考えているところである。</p> <p>※公益財団法人JKA補助事業…競輪・オートレースの売上金の一部を財源に、公益事業振興に補助を行う事業 ※一般財団法人日本宝くじ協会助成事業…売上金の一部を公益法人等が行う公益事業に対して助成を行う事業</p>
3	<p>施設によっては、将来、指定管理者に移行していくという話があったが、どんな所が候補地で、どのような形で移行できるのか回答いただきたい。</p>	<p>説明</p>	<p>栄町自転車駐車場と川口自転車駐車場以外は、使用料収入と所要経費の差が赤字であり、赤字の施設単体では募集したとしても応募する業者はないと思う。今後、コンベアの入れ替え等、施設の修繕完了後であれば可能性はあるものの、施設の老朽化による修繕費用は依然として必要であり、その負担額も課題となる。</p> <p>そのような中、川口駅と川口元郷駅の5施設で一つとした指定管理者を募集し、利用料金制での契約が考えられる。その他、赤字の施設については、指定管理者制度へ移行したとしても委託料金制でないと参加する業者が存在せず、委託料以外に修繕費も負担していくこととなり、指定管理者制度への移行はメリットが無いと考えている。並木・西川口自転車駐車場については民間活用による建て替えを行い、無償譲渡後に指定管理者に移行する考えである。</p>

No.	質問内容	回答方法	回答内容
4	<p>利用率の低い幸町自転車駐車場の利用者の実態と利用率が下がっている要因について調べていただきたい。また、廃止の方向性についても改めて検討した上で回答いただきたい。</p>	<p>説明</p>	<p>幸町自転車駐車場については、現在の旧そごうの駐車場（S L青葉通りファミリーマート前）に昭和59年に設置されたが、リアパークトンネルの建設による、旧そごうとの交渉から土地の交換が行われ、平成7年に現在の場所へ移転している。以前の駐輪場は立地が良かったこともあり高利用率だったが、移転してからは駅から遠くなり、奥まっているため、わかりづらいなどの立地の悪さから利用率はずっと低調であった。市議会一般質問でも利用率の向上について質問があり、学生料金の値下げを行ったが、効果はなかった。また、大型商業施設と併設する公園に駐輪場があり、幸町自転車駐車場よりも駅から遠いものの、約200台の自転車が無料で駐車できる状態であることも利用率の低下を招いている原因ではないかと考えている。</p> <p>幸町自転車駐車場を閉鎖すると、今後、川口駅の中距離電車の停留に伴い北口ができた場合、新たな自転車駐車場を建設する場所が無く、駐輪需要にこたえることができなくなることから、市政の状況を鑑み、慎重に検討していきたいと考えているところである。</p>

令和4年度 川口市行政評価外部評価委員会 質問・指摘及び回答一覧表

部会・事業名	第一部会	幼稚園費	事業担当課	教育総務課、庶務課、学務課
--------	------	------	-------	---------------

1 第2回外部評価委員会 質疑応答内容

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
1	延長保育の要望が強いようであるが、今後、どのような形で延長保育を行っていく考えか。	幼稚園からも保育時間の延長について要望もあることから、人員配置について、現在検討を始めたところである。	
2	事業概要の中で、公立幼稚園の大きな特色の一つとして、私立幼稚園では受け入れることが困難な子どもたちを受け入れることとあったが、特別支援を必要とする園児は何名いるのか。	正確な人数は把握していないが、各学年に数人ずつ在籍していると伺っている。	
3	保護者アンケート調査の公立幼稚園を選んだ理由の1位が保育内容とあるが、何か特色はあるのか。	幼小中の連携、特に幼小の連携が特色の一つとして、顕著なところであると考えている。	
4	保護者アンケート調査に、公立幼稚園を選んだ理由として保育料とあるが、保育無償化制度が導入されているため、私立幼稚園と保育料に違いはないのではないか。	保護者アンケート調査は、無償化になる以前に行ったものであるため、公立幼稚園を選んだ理由として保育料が挙げられているものである。	

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
5	保護者アンケート調査は毎年行っていないのか。	実施していない。	
6	別紙1「事前質問一覧表」のNo. 8について、「施設画面上、幼稚園については、学校と同じ築65年が改築を検討する目安であるため、約18年後となる。」という主旨の回答があったが、南平幼稚園の構造は鉄筋か。	鉄筋コンクリート造の一階建てである。	

2 第3回外部評価委員会にて回答する質問項目

No.	質問内容	回答方法	回答内容
1	<p>公立幼稚園を選んだ理由として、保育内容と保護者アンケート結果では出ているが、保育内容とは何だろうという話になった。</p> <p>特に幼小の連携という内容が出てきたが、どのような連携の内容なのか、現在の保育所保育指針や幼稚園教育要領においては、小学校との連携推進について内容が盛り込まれており、小学校の学習指導要領においても、幼稚園と保育所との連携は明記されていることから、どの保育所や幼稚園でも小学校と連携が行われている。</p> <p>そうした中で、市立幼稚園として、より優れた連携を行っているのかということをお尋ねしたい。</p>	説明	<p>舟戸幼稚園については、同じ敷地内にある環境を生かし川口市の拠点地域学校「舟戸学園」として、舟戸幼稚園・舟戸小学校・南中学校の12年間を見通し教員間の合同研修、授業参観、子ども同士の交流、年間カリキュラムの改善を図りながら学校間連携教育を研究実践している。</p> <p>南平幼稚園については、近隣の元郷小・東領家小での総合的な学習の時間や生活科での体験活動に参加交流したり、一方通行路を挟んだ向かいにある元郷中と連携し、安全教育の一環として合同避難訓練の実施や、園内にある防犯ブザーを鳴らすと元郷中の先生方が駆け付けるような体制が整備されている。</p> <p>また、保育内容で特筆すべきものとしては、川口市立幼稚園では、「自由保育」の中で幼児の主体性を重視し、ねらいに基づいた意味ある遊び・保育を通して、「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」を育てている。さらに、両園とも、川口市教育委員会指導課から、担当指導主事等を招聘して幼稚園訪問、要請訪問、巡回教育相談を実施することにより、質の高い基礎教育の向上が図られている。</p>

No.	質問内容	回答方法	回答内容
2	特別支援対象の園児の状況を分かりやすく示していただきたい。	説明	特別な配慮を要する児童数としては、舟戸幼稚園48名（途中入園2名）中8名、南平幼稚園が34名中8名であり、両園合わせて16名である。
3	課題把握の方法が確立されていないのではないか、あるいはそれに対応するための具体的な方策がないのではないかということが話題に上がった。例えば、保護者は延長保育を望んでいる方がかなり多くいるが実現できていないため、将来どのような方法で行うか、このような方向性が明らかではないということから、課題の把握方法とその内容について、今一度はっきりしていただきたい。	説明	「延長保育」については、来年度からの実施に向け、現在職員体制についての検討や予算要求をしているところである。また、課題の把握方法については、前回の第2回外部評価委員会において、「今後の幼稚園のあり方を検討するための市教育委員会が実施した保護者アンケート調査については、令和元年度以降実施していない」と回答をしたが、確認をした結果、両園では毎年幼稚園評価としてのアンケート調査を実施しており、幼稚園の運営や教育活動等に係る課題を把握している。今後は、当委員会でのご助言を踏まえ、各幼稚園と当課も含めた関係部局が連携をより密にしながら、課題をしっかりと把握して執り進めていく。